



恐竜の営巣地と散乱した卵化石を発掘する隊員たち。こうした成果の裏には地道な努力があります

恐竜に 会いたい

岡山理科大教授・石垣忍



II 夏の発掘冬から準備

1月にモンゴルへ行ってきました。「恐竜を掘りに行ってきたのですか？」とみんなに聞かれますが、今年夏に予定している調査の相談に行ってきたのです。

冬のモンゴル。寒い日の最低気温はマイナス30度以下にもなります。外を歩く

と上のまつ毛と下のまつ毛が凍り付いて目が開けにくくなります。とても発掘はできません。春になると気温は上がりますが、今度はずいぶん砂嵐に悩まされます。というわけで、発掘作業は7月から9月初旬に行われます。みんなそ

地道な作業が成果に

の時期がいいと言つので、恐竜発掘隊だけでなくいろいろな調査が集中します。人手も調査用の車両も不足します。私が真冬にウランバートルに行くのは夏のスケジュールを話し合ったためなのです。

恐竜発掘というと、輝く太陽の下での野外作業が思い浮かびますが、このような話し合いや準備作業、標本の整理など目立たない仕事がたくさんあります。地味な仕事をきちんとやり通してこそ、恐竜発掘の成果も上がるんですよ。

それって、チームの中での話し合いと地道な練習があってこそ試合に勝てるスポーツの世界みたい？ はい、いろんなことに通じる大切なことですね。あの大きな恐竜骨格の裏には、こんな努力が隠れています。



モンゴルの研究所で標本の整理をする研究者をタルサウルスの骨格で囲みます。恐竜の研究は野外発掘だけでなく、驚くほど多くの室内作業があります。